

ギャラリーのようなコートハウス

350坪という恵まれた敷地に建てる1棟。求められたのは家の大きさではなく必然的に生まれる余白をいかに美しく空間に取り込むかでした。研ぎ澄まされた感性で人の心の初源に触れる建築をつくりつづける岡田哲史さん。この邸宅にも高いクオリティに貫かれた空間が連続しています。

撮影／川辺明伸 取材・文／酒井新 アート協力／カッシーナ・イクスシー名古屋店



HOUSE -LIKE GALLERY SURROUNDING A COURTYARD

正面奥の右に見えるのが玄関。手前に進むと、中庭の開放的な空間が目に入り込む。そのまま歩けばギャラリーになったホールとリビングがあり、逆に進むとダイニングとキッチンがある。通路奥のハイバックチェア各¥330,000 ソファ¥2,464,000 クッション各¥45,100 (カッシーナ・イクスシー名古屋店)

リビングに続く屋根のかかったテラスから、中庭越しにダイニングを見る。ダイニングのガラス壁は3枚引きで、すべて左側に引き込める。開放せば中庭とボーダレスにつながる空間に。手前のリビングのガラスのコーナーも、繊細に納められている。フロアランプ ¥249,000 (カッシーナ・イクスシー名古屋店)

モダンアートのような自然の造形が、端正な空間の中に浮かび上がる

前面道路から敷地に入ると、建物の横を歩くゆったりとしたアプローチが設けられている。足元にはやや赤みのあるやわらかな色合いの石を敷いた。前方に見える薄く軽快な屋根の右に玄関がある。



奥に進むほど下がる敷地の高低差を利用して設けた地階と庭。上に1階のリビングが見えている。リビングから外構の壁に向かって一部をルーバーにした屋根が掛かる。見付け幅、屋根の支持の仕方など、細部まで美しく構成されている。

住むところと住まないところ、完璧なバランスが極上の空間体験をつくる

歴史のある閑静な住宅街で暮らす建て主のKさん。既存の住まいが手狭になり、住み替えを計画し見つけたのは、同じエリアの小高い丘の上に広がる350坪の土地。設計した建築家の岡田哲史さんは、建築の設計を始める以前の10年間、イタリアの古典主義建築の歴史を研究し博士号を取得。造園関係の造形も深く、ランドスケープデザインまで手がける。その研ぎ澄まされた感性で、人間の魂に触れる美しい空間をつくることで知られている。

「この由緒ある住宅街の建ぺい率は30%、建物を隣地境界から1.5m以上離して建てなければならぬというルールもあるため、敷地内には必然的に大きな余白が生まれます。しかしその余白のほうに、むしろ大事。図と地の関係と云いますか、そのバランスを的確に判断し、いかに美しく豊かな建築空間をつくりだすか。それが建築家としての私の重要な役割でした。」

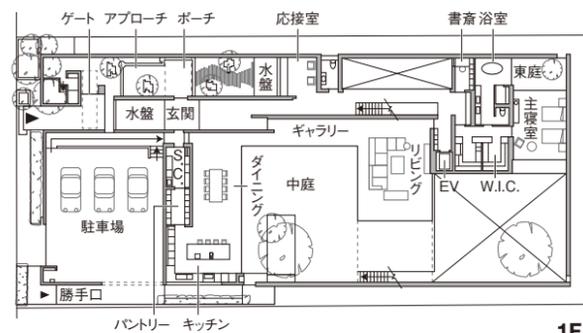
岡田さんは、まず何もない敷地で全身の感覚を研ぎ澄ませ、歩きまわ

りながらその土地にふさわしい空間を思い描くことから始めるという。「道路から何メートル敷地に入り込み、どれくらいのアプローチを歩いて玄関に至るのか。次の空間はどのように展開し、そこから何を、どのように歩き出すか。光の濃淡、空間の大小や質感などをイメージし、少し暗い空間に誘ったり、明るく開放的な場所に導いたり、連続する空間体験を頭の中で構想するのがです。」

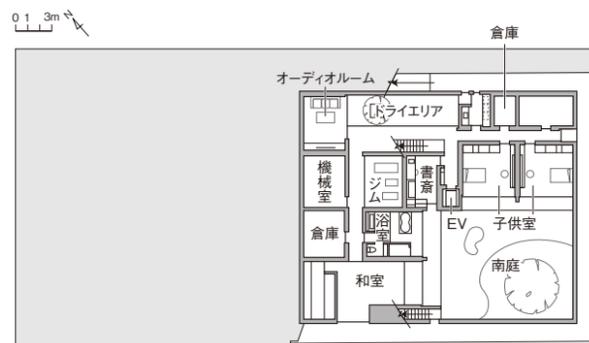
薄く繊細な屋根が掛かる玄関に向かい、石と水と緑で精緻にデザインされたアプローチ空間を歩く。建物内に入ると、天井を低く抑えた玄関ホールからアートが並ぶギャラリーを経て、リビングとダイニングが中庭を挟んで向き合うメインの空間に出る。そこからは天井も高く切りかわり透明感溢れる明るい世界が広がるが、なにより最初にアフリカ産大理石が目飛び込んでくる。悠久の時間をかけて地球が創出した自然のアートがそこにある。岡田さんは住まいの各所にアートが趣味のKさんが楽しめるように、自然光の入射角

度や照明計画を綿密に計算して作品の、上質な背景、となる壁を用意。それと同時に、洗練を極めた建築そのものがアート作品になっている。ダイニングのガラス壁は可動で、そのすべてを開放せば中庭と完全に連続する。「本来、建築に内も外もないのです」と岡田さん。その透明な空間性はリビングへと続き、中庭を中心に豊かな生活空間が展開する。「理屈をこねくり回しても、美しいもの、をつくることはできません。建築をつくるのは、料理と似ています。美味しい料理はレシピがつくるのではなく、料理人の優れた感性と節度あるバランス感覚が作りだすものなのです。コンセプトのような論理的仮説をいくら高尚に重ねても、所詮そこから生まれるものなどしていません。そんな言葉にならない、美味しい建築、と一緒に楽しんでいただければと思います。」

岡田さんもまた、第一級のシェフなのだ。土地と建て主が求める世界をそのつど完璧に料理し、味わわせしてくれる。



1F

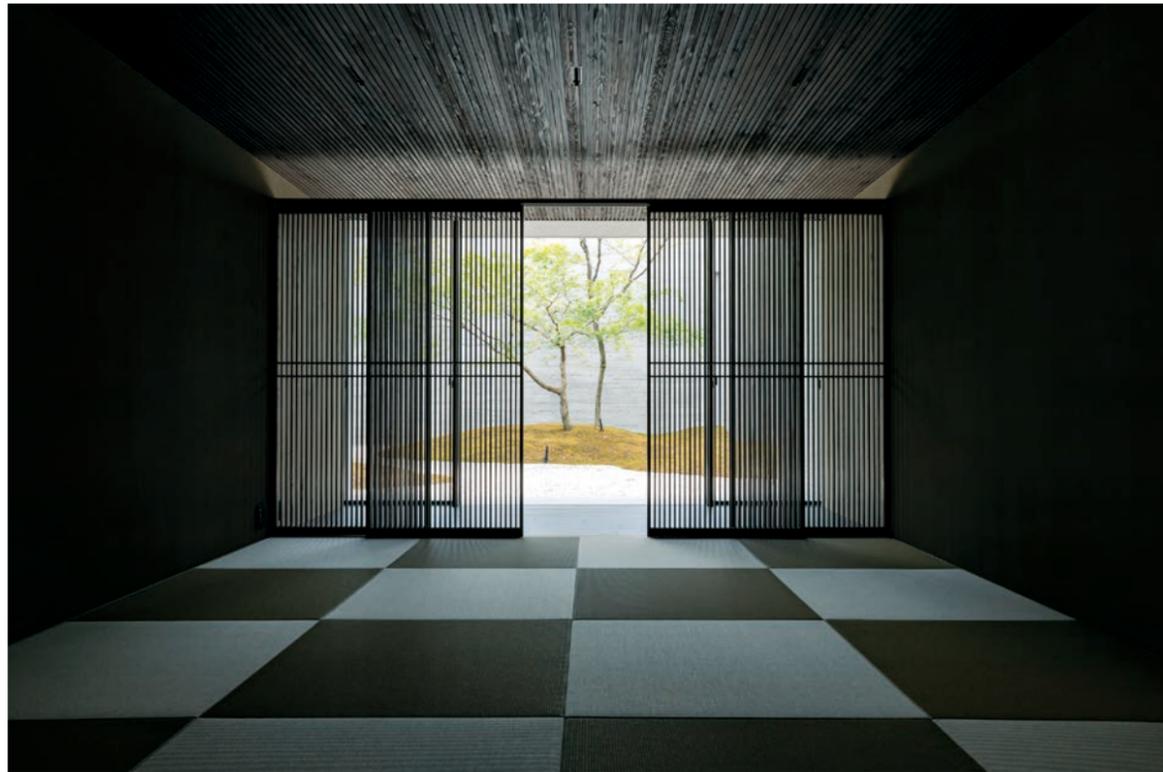


B1F

美しい建築をつくるのは研ぎ澄まされた感性と節度あるバランス感覚



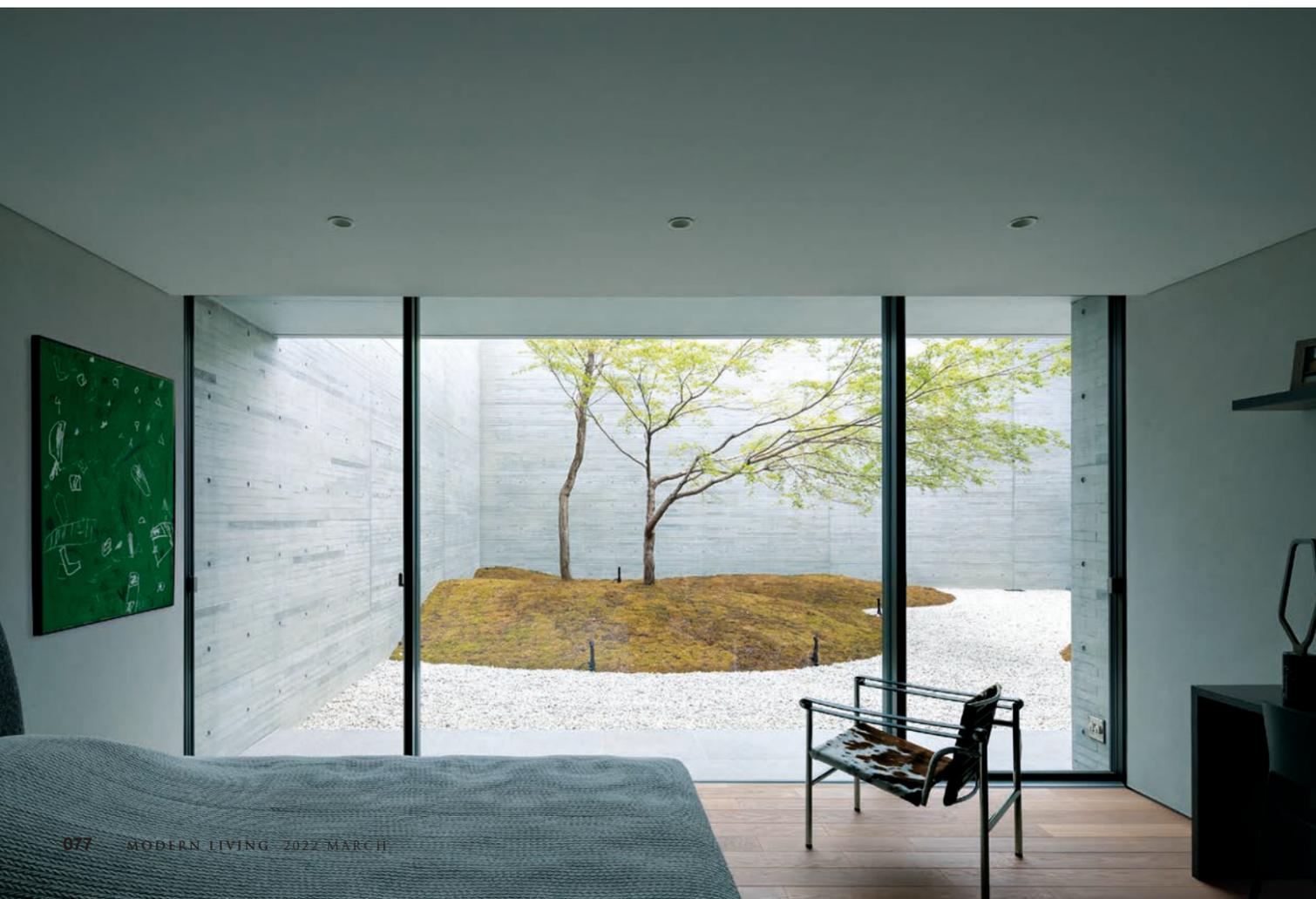
トップライトを設けたダイニングの壁は、この建築の一つの見せ場としてアフリカ産の大理石を使っている。テーブル上のボウル ¥52,800 カウンター上のトレイ ¥28,600 ボトル ¥35,200 カップ (大) ¥18,700 (小) ¥17,600 窓際のカウンター上のボウル ¥16,940 (すべてカッシーナ・イクスシー名古屋店)



上 地階に設けたモダンな和室。琉球畳が美しい市松模様を描く。細い縦棧の障子が繊細な光の模様をつくり出している。下 和室と共に庭を囲む地階のベッドルーム。このミニマルな中庭にも、抑えのきいたデザインが施されている。中央は大きなフィックスガラスでサッシの上部も天井で隠されており、庭の眺めをアートのように美しく切り取る。チェア¥484,000 棚の上のオブジェ¥26,500 (2点共カッシーナ・イクスシー名古屋店)



上 ダイニングは中庭に向かって開放できるが、リビングはフィックスガラスを多用して落ち着いた空間に。屋外用のソファ (3人掛け) ¥1,320,000 (1人掛け) ¥440,000 センターテーブル (柄) ¥550,000 (無地) ¥330,000 奥のチェア ¥946,000 サイドテーブル ¥372,000 (すべてPaola Lenti) 下 間接照明で夕暮れから夜にかけて、大理石の美しさが映える。ポウル ¥4,950 (カッシーナ・イクスシー名古屋店)





DATA

HOUSE K/n

- 設計監理 / 岡田哲史建築設計事務所
岡田哲史 寺田達哉 岡田理佐
- 敷地面積 / 1153.51㎡
- 延床面積 / 609.18㎡
- 1階 / 331.40㎡
- B1階 / 277.78㎡
- 所在地 / 愛知県名古屋
- 用途地域 / 第1種低層住居専用地域
- 構造 / RC造一部鉄骨造
- 構造設計 / 北條建築構造研究所
北條稔郎 秋山利奈
- 設備設計 / 明野設備研究所
松田真明 辺田一生
- 照明デザイン / コイズミ照明 魚田裕子
- 工事期間 / 2019年9月～2021年6月
- 施工 / 相宮工務店
宮田勝仁 山田朝弘
- キッチン製作 / ジーマテック
枝松敦子 市川文字(元社員)
- アート協力 / カッシーナ・イクスシー名古屋店
- 造園 / リビングデザイン 本田 広

MATERIALS

- 外部仕上げ
 - 屋根 / コンクリート+ウレタン複合防水
 - 外壁 / コンクリート打放し(短冊型枠)
+撥水材塗布
- 内部仕上げ
 - LDK
 - 床 / タイル(ADVAN)
 - 壁 / コンクリート打放し(短冊型枠)
 - 石貼り(関ヶ原石材)
 - 天井 / PB+AEP塗装
 - 個室
 - 床 / フローリング(マルホン)
 - 壁 / 珪藻土(フジワラ化学)
 - 天井 / PB+AEP塗装
 - 浴室・洗面
 - 床 / タイル(ADVAN)
 - 壁 / タイル(ADVAN)
 - 天井 / ケイカル板+防カビ塗装
 - 和室
 - 床 / 琉球畳
 - 壁 / 聚落壁
 - 天井 / 木板貼り



4

4 トップライトを設けた1階の浴室。バスの右手に専用のコートが広がる。チェア¥415,800(カッシーナ・イクスシー名古屋店)

5 玄関ドアとポーチ天井の木部が、建物にやわらかな表情をつくる。6 アート作品のような大理石は、岡田さんがKさんを説得して、「この壁面に大自然が創造したアートを飾りましょう」と導入した。



5



6

暗く沈む空間もなければ、華やかなハレの場はつくりえない

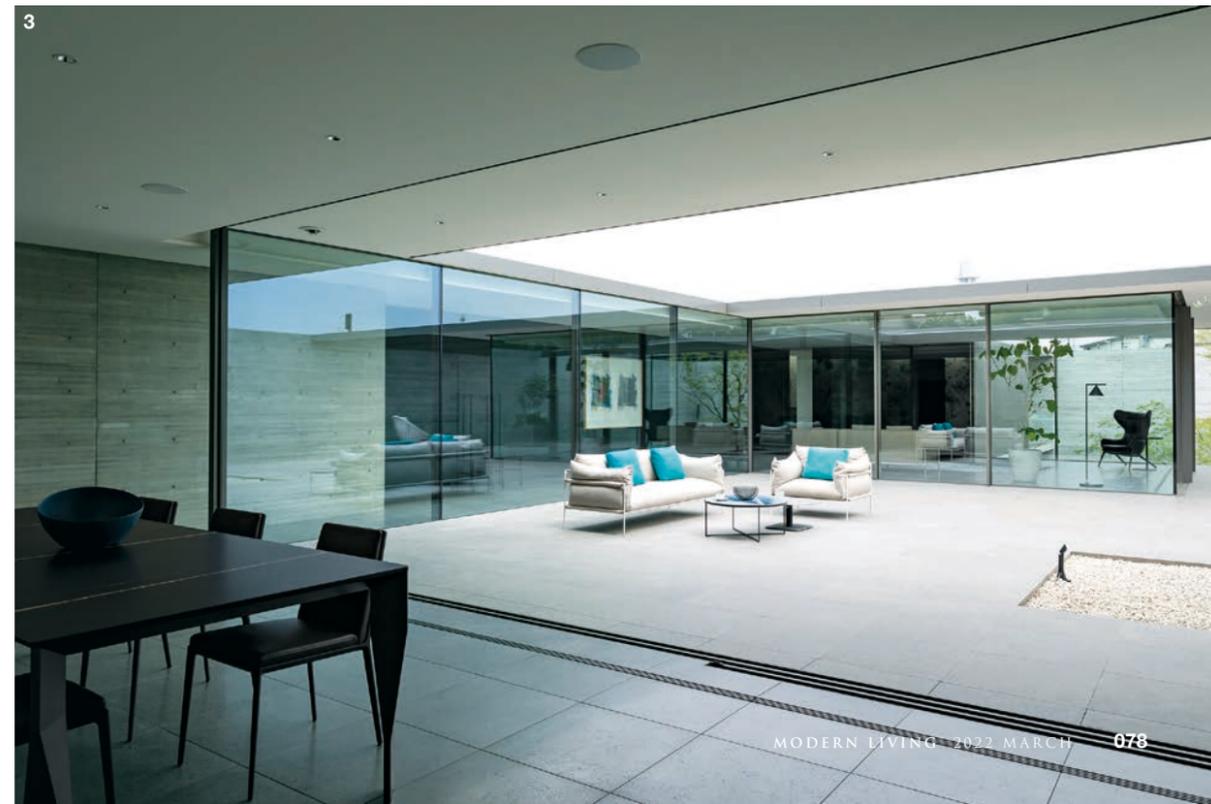


1



2

1 水盤を配した玄関ホール。あえて天井高を抑え光も絞って、次に展開する開放的な空間への序章としている。2 キッチンの水平窓から見える緑が、シンプルで機能的なデザインの空間に、服の清涼感を与える。3 ダイニングとテラスは、天井と軒下、床をフラットにつないでいるので、大型サッシを開け放すと内外が完全にひと続きに。



3